



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 321

September 2017

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

「ドイツ総領事館・オープンデー」のお知らせ

ドイツ総領事館が、ドイツ語を学習中、ドイツと姉妹校提携をしている、またドイツに興味がある中高生を対象に、「ドイツ総領事館・オープンデー」を9月18日(月・祝)に開催します。

「ドイツ総領事館・オープンデー」では、館内の案内後、在外公館(大使館・総領事館)についての役割並びにドイツについての説明があります。ドイツのお菓子の試食もあります。

日本国内の在外公館を訪れ、その仕事を見学するまたとないチャンスであり、ドイツを含め海外で活躍することを目指している学生にとっても非常に興味深いプログラムです。

ご家族の中で中・高校生がいいらっしゃる方は、是非ともご紹介の上、ご参加をおすすめください。

日時: 2017年9月18日(月・祝)

① 9:00~10:20 ② 10:30~11:50 ③ 13:30~14:50 ④ 15:00~16:20

会場: ドイツ総領事館(大阪市北区大淀中1-1-88-3501 梅田スカイビル東棟35F)

申込: グループでの申込ですので、神戸日独協会事務局へ申し込みください。

名前・年齢・見学時の希望言語(日・独・英)・参加希望時間(午前 od. 午後)・見学理由を9月14日(木)15:00までにお知らせください。

ドイツ語講座・ドイツ文化教室 2017年度第Ⅲ期開講

神戸日独協会のドイツ語講座・ドイツ文化教室2017年度第Ⅲ期が10月5日より開講します。開講講座の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。ご参加をお待ちしています。

ドイツ人研修生との交流会

9月24日は、ドイツ連邦議会選挙の日です。大阪ドイツ文化センターの研修生タミ・ベルマンさんとドイツの選挙について語り合いませんか？

- ◇ 日 時： 2017年9月24日(日)15:00～16:30
- ◇ 場 所： 神戸日独協会会議室
- ◇ 定 員： 20名
- ◇ 費 用： 無料
- ◇ 申 込： 2017年9月20日(水)まで(Tel.078-230-8150、E-Mail:info@jdg-kobe.org)

Zusammentreffen mit einer deutschen Praktikantin

Am 24. September ist in Deutschland die Wahl für den Bundestag. Wollen wir uns über das Thema mit der Praktikantin des Goethe-Institutes Osaka, Frau Tami Wehrmann, unterhalten?

- ◇ Datum : 24.09.2017 (So) 15:00 – 16:30
- ◇ Ort : Konferenzraum der JDG Kobe
- ◇ Teilnehmerzahl : 20 Personen
- ◇ Kostenfrei
- ◇ Anmeldung : bis 21.09. (Mi) (Tel.078-230-8150, E-Mail:info @jdg-kobe.org)

日独若者の「神戸再発見」

Gemeinsam Kobe neu entdecken

第43回. 盆踊りに参加して

Obon-Sommerfest

Sophie Bretschneider

Am 19.08. gingen eine Freundin und ich mit einigen Mitgliedern der Evangelischen Kirchengemeinde Kobe und der Deutsch-Japanischen Gesellschaft zu einem Sommerfest nahe Sumiyoshi.

Da ich noch nie zuvor in Japan gewesen bin und gerne so viel wie möglich von der japanischen Kultur erfahren möchte, war die Einladung zu dem Fest eine tolle Gelegenheit! Ich kam am 18.08. nach Japan und werde ein Jahr lang als Freiwillige an der Deutschen Schule Kobe auf Rokko Island arbeiten. Ein schöneres Willkommen als ein Japanisches Tanzfest kann ich mir daher nicht vorstellen ☺

Auf dem Fest gab es tolle Musik und viele Stände mit Essen und Spielen. Außerdem

war die Atmosphäre voller Spaß und Lachen, sehr angenehm. Auf dem Fest trafen wir mehrere Personen die die Deutsch-Japanische Gesellschaft kannten oder Teile der Kirchengemeinde waren, so dass wir noch mehr interessante Leute kennenlernen konnten. Auch mit einigen Personen, die so auf uns aufmerksam wurden, konnten wir erfrischende Gespräche führen. Später am Abend begann dann der Tanz in der Mitte des Parks, zu dem viele aus dem Publikum mittanzten, was sehr lustig und überraschend für mich war. Ich selbst wurde ebenfalls aufgefordert mitzutanzten und habe es sehr genossen. Die Stimmung auf dem Fest war toll und ich freue mich dort gewesen zu sein.

8月19日に私は友人と神戸ユニオン教会、日独協会の会員の皆さんとで住吉近くの夏祭りに出かけました。

私はこれまで日本に来たことがなく、また、できるだけ多くの日本文化を体験したかったのでお祭りへのご招待は絶好の機会でした！私は8月18日に来日し、有志として六甲アイランドにある神戸ドイツ学院で1年間働きます。日本の盆踊り祭りに歓迎されるなんて、これほど素晴らしいことはありません😊

お祭りでは素晴らしい音楽や、食べ物、遊びのたくさんの屋台がありました。その上、とても楽しい雰囲気、笑顔が絶えず本当に心地良いものでした。お祭りでは、日独協会と教会の方々とお話することもできたので、多くの人と知り合いになることができました。よく話してくださった方とは心地よい会話を楽しめました。夜が更けていくと公園の真ん中で盆踊りが始まったのですが、私が驚き、そして楽しかったことは、聴衆の中からたくさんの方が出てきて一緒に踊っていたことです。私も一緒に踊ることを勧められ、とても楽しい時間を過ごせました。お祭りは良い雰囲気、そこに参加することができて嬉しく思います。 (訳 梅田恭成)

関西二期会 第88回オペラ公演

ウェーバー作曲 オペラ「魔弾の射手」のお知らせ



関西二期会がウェーバー作曲のオペラ「魔弾の射手」をドイツ語で上演します(日本語字幕付き)。ドイツの民話を題材としたこの作品は、オペラにおけるドイツ・ロマン主義を確立した記念碑的作品であり、その清新な音楽は、後のワーグナーなどにも大きな影響を与えたと言われています。

今回の公演では、当協会のドイツ文化教室 声楽教室の講師でソプラノ歌手の末廣亜矢子先生がエンヒェン役で出演されます。芸術の秋にドイツ語でオペラを楽しんでみませんか？

日時： 2017年10月29日(日) 2:00～ (1:15 開場) 上演時間 3時間予定(休憩含む)
(10月28日(土) 4:00～の公演は別キャストになります)

会場： 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

ドイツ語談話室

第165回ドイツ語談話室

日 時 : 2017年8月19日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : お盆

今回の司会は井川伸子氏が担当され、去る7月17日、当談話室の中心的メンバーであった梅崎啓二氏が亡くなられたことを報告され、全員で黙祷をささげた。続けて北沢誠太郎氏が梅崎啓二さんへの追悼の辞を述べられた。

今回のテーマ「お盆」に関して参加者から多くの発言があった。以下その一部を紹介する。

—日本のお盆と同様、世界中に死者の事を思い起こす祝日があり、人間の心情は共通したものである。日本のお盆、カトリックの万霊節、韓国の秋夕(チュソク)、中国の中元節、等々。

—お盆の時期は、関東では新暦で7月13日から15日、関西では旧暦で8月13日から15日が多いが、地方によっては違いもある。

—先祖の霊を迎える「迎え火」、送り出す「送り火」で精霊の往来に光を捧げるのが一般的。和歌山では昔から川で灯籠流しをして精霊を送るが、近年川や海を汚すので禁止される所もある。

—精霊を供養する盆踊りが多く行われるが、これは地方によっていろいろな特色がある。四国・徳島の阿波踊りや岐阜・郡上八幡の郡上踊りはとくに有名である。

—お盆を祝う伝統や風習は地方によって、また宗派によって様々である。精霊の迎え方、もてなしの仕方、送りだし方とそれぞれの地方色がある。

—仏教上のしきたりや儀式は宗派によって随分違いがある。お経も随分異なるが、昔は子供のころからお経を覚えて家族で読経したものである。

—お盆に先祖の霊を家庭に迎えるため、家庭の主婦はその準備に大変であったのを思い出す。お供え、お飾り、お料理の準備等は主婦にとって大変な仕事であったと思う。

—ある一家では、今も全親族が長男の家に集まって、全員でお経を唱えておられる。お盆の儀式を坊さんに任せず、本来の通り家族で祖先を供養しておられる。

—お盆には夏休みを取り、子や孫たちが親元に帰ってくる民族大移動が行われる。普段は静かな親元の家は、この時期大賑わいとなる。

—お盆のお供えに、胡瓜に尾(トウモロコシのひげ)と四つ足を付けた物と、茄子に四つ足を付けた物がある。それぞれ精霊が乗ってくる馬と荷を引かせて来る牛車とか、精霊が来るときは馬で早く、帰るときは牛車でゆっくり、とか、諸説あるようだ。

今後のドイツ語談話室の予定

第166回 2017年 9月16日(土) 14-16時 テーマ : 世界の風変わりな政治家

第167回 2017年10月21日(土) 14-16時 テーマ : 読書の秋

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 165. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 19. August 2017, 14 bis 16 Uhr

Thema: Das Fest Obon

Diese Mal hatte Frau Nobuko Ikawa die Gesprächsleitung und berichtete, dass Herr Keiji Umezaki, langjähriges Mitglied unserer Gesprächsrunde, am 17. Juli 2017 verstorben ist. Wir beteten still für ihn und Herr Seitaro Kitazawa hielt eine Trauerrede.

Bei der Gesprächsrunde ging es um das Fest Obon. Dabei kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen.

- Ein Teilnehmer merkte an, dass in vielen Ländern der Welt Menschen an bestimmten Feiertagen der Toten gedenken. In Japan „Obon“, „Allerseelen“ in katholischen Ländern, „Chusoku“ in Korea, „Chugensetsu“ in China, usw..
- Eine Teilnehmerin erwähnte, dass der Zeitpunkt des „Obon“-Festes je nach Region unterschiedlich ist. In Kanto feiert man es zwischen dem 13. und dem 15. Juli, hingegen in Kansai zwischen dem 13. und dem 15. August.
- Ein Teilnehmer sprach von dem Brauch, die Seelen der Toten mit einem Willkommensfeuer zu empfangen und mit einem begleitenden Feuer wieder zu verabschieden. In Wakayama lässt man zum Abschied Laternen im Fluss davonschwimmen. Heute ist dieser Brauch jedoch teilweise verboten, weil die Laternen den Fluss und das Meer verunreinigen.
- Eine Teilnehmerin erwähnte die verschiedenen Bon-Tänze, die veranstaltet werden, um die Seelen der Toten zu unterhalten. Besonders bekannte Bon-Tänze sind z.B. „Awaodori“ in Tokushima oder „Gujo-Odori“ beim Gujo Hachiman in Gifu.
- Ein Teilnehmer sprach das Thema an, dass die Traditionen und Bräuche nicht nur nach Region, sondern auch je nach Sekte unterschiedlich sind, besonders darin, wie man die Seelen der Toten empfängt, wie man sie bewirtet und wie man sie verabschiedet.
- Eine andere Teilnehmerin erwähnte dazu, dass jede buddhistische Sekte eigene Zeremonien hat, es werden auch unterschiedliche Sutren verwendet. Früher lernten alle Kinder das jeweilige Sutra auswendig und rezitierten es zusammen mit der Familie.
- Eine Teilnehmerin erinnert sich noch gut daran, dass ihre Mutter während der Obon-Periode sehr beschäftigt war, um die Opfergaben, den Schmuck und die Speisen fürs Obon-Fest vorzubereiten.

-Bei einem Teilnehmer wird auch heute noch wie in früheren Zeiten zu Hause die Bon-Zeremonie ohne einen Mönch von der Familie selbst durchgeführt. Alle Verwandten versammeln sich und rezitieren gemeinsam die Sutren.

-Ein Teilnehmer erzählte, dass seine Kinder und Enkelkinder in den Sommerferien zu ihm kommen. In Japan besucht man für gewöhnlich zu „Obon“ sein Heimathaus, das ist eine wahre Völkerwanderung. In sonst immer sehr ruhigen Häusern ist während der Zeit des Obon dann sehr viel los.

-Eine Teilnehmerin sprach von den Opfergaben. Als Opfergaben verwendet man Pferde- und Ochsenfiguren. Die Pferdefiguren bestehen aus einer Gurke mit Beinen aus vier kleinen Hölzchen und einer Maisähre als Schwanz. Die Ochsen macht man aus einer Aubergine und vier Hölzchen für die Beine. Man sagt, dass die Seelen der Toten auf dem Pferd reiten und Lasten mit einem Ochsenkarren bringen. Eine andere Ansicht ist, dass die Seelen schnell auf dem Pferd geritten kommen und mit den Ochsenkarren langsam wieder zurückfahren.

Nächste Treffen:

Samstag 16. September 2017, 14 bis 16 Uhr, Thema: Interessante Politiker der Welt

Samstag 21. Oktober 2017, 14 bis 16 Uhr, Thema: Lesen im Herbst

催し物参加報告

ドイツビアフェスト2017に参加して

会員 下山 和行

2017年8月5日(土)に『ドイツビアフェスト2017』がビアレストラン『ロイン』三宮店で行われました。私はドイツビアフェストには初参加で少し緊張気味になっていましたが、最初の『Prosit』でジョッキ一杯を一気に飲み干し、直ぐに二杯目に突入すると緊張が解れて行くのを感じました。料理も順次テーブルに載せられビアフェストラしくなり、参加者のビールのかわりも増えていったようです。

日頃は日本酒やウイスキー、ワインを好んで飲むことが多い私ですが、今日のこの時は半年分のビールを飲む勢いでした。アコーディオンの音色と司会の女性の歌声、その奏者と女性のコスチュームが良い雰囲気を出していました。

テーブルを同席した参加者で声が綺麗で歌の上手な女性が居たので、尋ねるとオペラの先生でプロの歌手の方でした。間近でプロの歌声を聴けるなんてとても光栄で得した気分でした。また、隣に座っていた女性と話をしていると大学の小児科の先生であることが分かり、日頃の小児科への疑問を尋ねることが出来、嬉しくなってしまう、ビアフェストであることを忘れ、話に夢中になってしまいました。ご迷惑をお掛けし、申し訳ありませんでした。

ビアフェストは後半に入りさらに盛り上がり、最後は参加者全員が後ろから前の人の肩に手を載せ輪になって回り始め、参加者が一体となったような気分でした。

飲み放題のビアフェストでしたが酔っぱらった人は現れず、日独協会らしく上品なビアフェストだったと思います。

ドイツビアフェストに初参加でありましたが、総勢50名を超えるメンバーと楽しい時間を過ごすことが出来ました。来年も是非参加したいと思っています。皆様有り難うございました。

シリーズ「ドイツ、わが愛」

第5回 魅せられた中世の街 エアフルト

会員 井川 伸子

2011年イースター休暇に15日間ほど娘と一緒に私の旧友を訪ね歩くドイツ旅行をしました。その中でも特に、印象に残ったのは、中世の姿がそのまま残っている旧東ドイツの街、エアフルトでした。エアフルトは当初は旅程には入れていなかったのですが、日本から旅立つ2か月ほど前に、日本に七宝焼き作品の受賞式にドイツから来られたミヒヤエルという若いアーティストから、「せっかくだから、僕の生まれ育ったエアフルトにもぜひ足を運んで下さい。案内しますよ。」と勧められ、急遽プログラムに入れ、ドイツの真ん中に位置するテューリンゲン州の州都エアフルトに寄ることになりました。

私たちがエアフルトに着いたのは、夕方で、ミヒヤエルが、ペータースベルクの高台から旧市街地を見せてくれました。薄暗い夕闇の中、ライトアップされた壮大なゴシック様式の MARIA 大聖堂とその横に高くそびえ立つ聖ゼヴェリ教会は幻想的な中世の雰囲気醸し出していました。坂を下りて聖堂前の広場に出て見上げると、目の前は、70段もの幅広い階段。圧巻です。この大聖堂と教会に挟まれた階段は世界で最も美しい野外劇場の一つで、世界中からここで行われるオペラや、コンサートなどを鑑賞しに多くの観光客が来られるそうです。また、ここの聖堂広場でのクリスマスマーケットは、ドイツ三大クリスマスマーケットの一つだとか。その日の夜は、旧市街の細い裏通りを歩いてミヒヤエルがよく行く居酒屋へ。その裏通りの名前がルター通り。聞くとところによると、昔、マルティン・ルターがこの通りを歩いて学校に通っていたところから名付けられたとか。ルターが歩いたこの石畳の道を今、歩いているのかと思うと不思議な気持ちになりました。宗教改革者のマルティン・ルターが聖書をドイツ語に翻訳して有名であることは知っていましたが、このエアフルトで活躍したことは今まで知りませんでした。

また、この街中には小川がたくさん流れていて、大小合わせて全部で142個の橋がかかっているそうで、中でも橋の上に、お店や家が建ち並ぶクレーマー橋は有名で、娘と一緒にギャラリー、工芸品、骨とう品、お茶の葉、香辛料、ジュエリー、ワインバーなどユニークなお店を一軒、一軒見ながら橋を渡りました。中世の頃は、この橋の上で、マイスターたちが住んで仕事をしていたらしく、毎年、「クレーマー橋祭」には、当時の職人技術や、ミンネザング(中世の恋愛抒情詩)などが披露されるそうです。上に人が住んでいる橋としては世界最長の橋だそうです。

市役所前のフィッシュマーケット広場からは、修復されたルネサンス建築の綺麗な木骨家屋が建ち並んでいるのが見られ、ミハエルと彼のガールフレンドと私たち4人で大きなパラソルの下でランチをしたのですが、まるで、中世の街中で食事をしているような落ち着いたいい雰囲気でした。ミハエルは地元では有名なアーティストのようで、街を歩く所々で、ハロー、といろいろな人に声をかけられていました。ドイツの好きな人は、大聖堂だったらケルン、クリスマスマーケットだったらニュルンベルクと言われるでしょう。でも、私は両方ともエアフルトだと言いたいです。ミハエルは、芸術、文化の面で歴史がある旧 東ドイツの街の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと言っておりました。彼に中世の街を案内していただき、とても有意義なエアフルト三昧の旅の一コマでした。

ハンブルクレポート

Nr.5 「人の輪とハンブルク」

会員 北村 美里

ワーキングホリデー期間も残り一ヶ月になりましたが、未だに新しい出会いがたくさんあり、それぞれの出会いに面白さを感じています。

以前に3回ハンブルクに滞在した時は学生の時でした。私は誰かと出会うために特別なことをする必要がなく、大学という場所や授業などのプログラムが人との出会いの場を提供してくれていました。逆に言うと、人の輪という意味で大学の外に出ることがめったになく、今から思えばとても狭い範囲で過ごしていました。それでも友人を介して、ワーキングホリデー、就職、結婚と多様な理由でハンブルクに来た方々と出会い、未来のいろんな可能性を教えてくださいました。これらの出会いが今回の滞在につながっています。

今回は、職場があるわけでも学校があるわけでもなく、どこにも所属しない形でハンブルク生活が始まりました。人と出会う場所があらかじめ用意されていない、新しく面白い状態でした。だからこそ、学生の時には出かけて行かなかった世界で、いろいろな人と繋がっていききたい。そんな私が利用したのは、様々な交流会です。日本にいた頃から、ドイツ語で繋がる場所を求めて色々な会に出ていたので(日独協会もその一つですね!)、同じことをハンブルクでもやってみました。日本にいるときに、ハンブルクにある二つの会を知る機会があり、この二つには必ず行こうと決めていました。これらの会には今でもお世話になっています。

留学時代の友人たちも助けてくれました。彼らは、たとえ大学のころのように毎日とは会わなくても、同じ街にいただけでとても心強い存在です。それだけでもありがたいことですが、再会した時に、日独交流のグループや、交流会を調べられるアプリを教えてくださいました。そのアプリでは、さらに趣味のボードゲームの会や、女性のキャリアネットワークの会、インターナショナルなネットワークの会を見つけることができました。このような集まりが無数にあることも、大きな街の魅力の一つだと思っています。

ただ、私は人に話しかけるのが得意ではないので、行くだけ行って、ぽつんとおとなしくしていることも少なくありません。お互い気まずさを感じながらどうにか話題を続けているという雰囲気の時もあります。けれど、そんな中でも気が合う人が見つかったりします。これはいつも不思議に思うことです。自分が閉じていなければ、同じように新しい出会いに開かれた人と繋がって、人の輪が広がっていく、そのことを何度も教えてもらっている気がします。最近、知り合ってから年月に関係なく深まる繋がりもある、と実感する出会いもありました。数か月前は知らないどころか違う国にいた人だなんて、と思うと巡り合わせというのは本当に面白いなと思います。

最後に、これは留学の時も感じていたことですが、自分が持っている複数の言語で人と繋がっていくことが、自分の豊かさのひとつだと改めて思います。主な使用言語が日本語の会、ドイツ語・日本語の会、英語の会、それぞれに集まる人も話題も違います。ドイツ語のみを使うときは、たいいてい友人に誘われて彼らとその友人たちと一緒に食事したりどこかへ行ったりすることが多いですが、そうなるとまた場の雰囲気が変わります。韓国語を勉強している関係で先日参加した独韓の交流会も新鮮な経験でした。ドイツにいるからにはドイツ語で話す！と意気込む時期も過去にはありましたが、自分が持っている言語をすべて財産にして、それぞれの世界をのぞき、いろいろな人と繋がっていく楽しさがハンブルクにはあると思います。

神戸日独協会 ドイツワインの会

第7回「日本人醸造家に聞くドイツワイン」

Nr.7 Deutscher Wein von einem japanischen Winzer

神戸日独協会では“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”をコンセプトにドイツとその食文化の理解を深める「ドイツワインの会」を開催しています。

第7回目のテーマは「日本人醸造家に聞くドイツワインの全て」。11月にラインヘッセンで醸造家としてドイツワインを造っている浅野秀樹氏が来神します。今回の講師はローテ・ローゼの松田氏に加え、特別ゲストとして浅野氏を招き、本場ドイツでのワイン造り、ぶどう栽培などについて、醸造のプロからお話を伺います。生産量が少なく希少な浅野氏のワインを試飲しながら、ドイツワインについて楽しく学びませんか？

日時／Zeit: 11月5日(日)／Sonntag 5 November 14:00-16:00

場所／Ort: 神戸日独協会会議室 /JDG Kobe

定員／Teilnehmerzahl: 20名(先着)／ bis 20 Personen

※定員を超えた場合はキャンセル待ち(会員優先)

費用 /Kosten: 2,000円 / 2,000 Yen (会員: 1,800円 / Mitglied 1,800 Yen)

※締め切り日以後にキャンセルされた場合、後日料金を請求いたします。

ご了承ください。(締め切り日の申込者数でワインを発注するため。)

申込 /Anmeldung: 10月31日(火曜日)まで / Bis Dienstag 31 October

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

※初参加の方は、お申し込み時にお知らせください。(テキスト準備のため。)

第7回のテーマは当初「ラベルデザインと等級」を予定していましたが、浅野氏の来神が決まり特別に企画しました。「ラベルデザインと等級」は第8回にて検討中です。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は10月15日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は10月12日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し(9~10月)

日時	催し	会場	申込〆切 など
9月10日(日) 14:00~	「ドイツワインの会」 第6回「ワインのヴィンテージ」	神戸日独協会 会議室(19階)	9月4日(月)まで
9月16日(土) 14:00~	第166回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
9月24日(日) 15:00~	ドイツ人研修生との交流会	神戸日独協会 会議室(19階)	9月20日(水)まで
10月15日(日) 15:00~	神戸日独協会 実行委員会	神戸日独協会 実行委員会	当日参加可
10月21日(土) 14:00~	第167回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可

